

(1) 教育活動の目標と方策

【研究校としての実践研究・成果還元】

今年度の取組目標と方策	取組目標等に関する自己評価 翌年度以降の課題とそれに対する改善策
<p>「【TIPS-Type 3】 令和7年度 Tokyo-IBL ハイスクール」</p> <p>①デジタルを活用して、児童一人一人が、自分の興味・関心に基づき自分の課題を設定したり、他の児童の取組状況を見たり相談したりしながら、課題に取り組む。</p> <p>②教員は、端末で児童全員の学習状況をリアルタイムで把握し、適宜支援する。</p> <p>令和7年度の校内研究のテーマ「探究的な学び」</p> <p>①中等教育学校の「立国LEADERプログラム」との一体化を図る。</p> <p>②探究の技（考える技、調べる技、表現する技）の指導を、総合的な学習の時間を中心として充実を図り、探究の技の確立と実際の活用に取り組む。</p> <p>③小学校の生活科、小学校・中学校段階の総合的な学習の時間、高等学校段階の総合的な探究の時間を関連付けて「立国LEADERプログラム」を推進する。</p> <p>人権尊重教育推進校（令和7・8年度）</p> <p>①「グローバル（地球規模の視野と地域の視点で考え行動すること）に考えるキャリア教育・進路指導」が指導の柱の一つであることから、人権課題「外国人」に関わる差別意識の解消を図るための教育を推進する。</p> <p>②学習でのICTの活用を積極的に進めていることから、人権課題「インターネットによる人権侵害」への取組について推進する。</p> <p>★海外学校間交流推進校（令和7年度）</p> <p>①姉妹校である新生国民小学校（台湾）、ブルーノHブリュッゲル小学校（ドイツ）から、訪問を受け入れて、児童・生徒が日本以外の国にも人的ネットワークを築き、様々な文化、ものの見方や考え方を学ぶ機会をつくる。</p> <p>②姉妹校との海外交流に係る校内体制を構築し、英語教育、多言語教育、立国LEADERプログラム（本校独自の探究プログラム）の3つを相互に関連付けて「グローバルマインドセット・カリキュラム」として教育課程を編成し、学習した内容を実践する場として継続的な海外交流活動を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・探究のプロセスを3つのフェーズに分け、立国探究プランA、B、Cとして、学習内容や児童の発達段階に応じて、単元や年間指導計画上に全時間の2割程度、いずれかのプランを取り入れて実践した。</li> <li>・発表者だけでなく、発表しない児童の考えも取り上げられ、多様な考えを組み合わせながら学びを深める場面が多く見られた。</li> <li>・研究主題を「気付きを大切にし、つなげ 広げ 学び合う児童の育成」として研究を行った。</li> <li>・社会、総合的な学習の時間、生活の授業において、研究授業を実施した。適切な学習場面において、児童が自分に合った方法を選択し、情報や考えを整理・分析できるよう、教員間で共有を図ることが課題。</li> <li>・研究主題を「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることができる児童の育成」として、研究を行っている。</li> <li>・本年度「いじめのない学校づくり」を重点に掲げ、誰もが安心して楽しく学校生活を送るために、人権課題の一つである「子供」に焦点を当てて実践した。「自分も相手も大切に」という人権尊重の理念を一貫して大切に、児童の発達の段階に応じて人権意識を育む指導の充実に努めた。</li> <li>・新生国民小学校との直接交流を実施し、英語・算数・図工の各教科において授業交流を行った。これらの取組を通して、海外姉妹校受け入れにおける事前の打ち合わせから交流実施までの一連の流れを整理し、本校としての対応マニュアルを作成することができた。</li> <li>・姉妹校を訪問し、令和8年度以降に児童が訪問して直接交流を行うことを見据え、具体的な内容について打ち合わせを行った。オンライン交流の方法や対象クラスの英語レベルを把握するため、授業見学を実施した。また、児童の学習につなげることを目的として、訪問候補地の実地調査を行った。</li> <li>・継続的に良好な関係を維持するため、折に触れてメール等による連絡を行うとともに、直接訪問が実現しない場合には、授業におけるオンライン交流などの代替案を提示し、実施に向けて協議を進める。</li> </ul>

【円滑な学校運営】

今年度の取組目標と方策	取組目標等に関する自己評価 翌年度以降の課題とそれに対する改善策
<p>①一人一人が担当業務を把握し参画意識をもって自立的・協働的に取り組めるよう、定期的なミーティングを活用して進捗状況の共有と課題把握及び解決策の検討を行う。</p> <p>②完成年度までに必要な物品整備のための予算を請求し確実に購入する。あわせて中等教育学校と連携して管理運営費の請求と執行を行う。</p>	<p>①週2回、短時間のミーティングにおいて、情報共有と課題把握を実施した。情報の共有等、協働性を高めるため、次年度は、週3回に変更する。</p> <p>②物品について完成年度を見通して計画的に整備している。中等教育学校と一体的な予算執行を推進する。</p>

<p>③企画調整会議や校内研修を活用して中等教育学校と適性検査等について共通理解を形成する。また、附属小学校の分掌主任が機を捉えて日常的に中等教育学校との連携を図る。</p> <p>④マルチメディア室の在り方を確認し、利活用について検討する。合わせて、都教育委員会と連携し校務総合型システム（C4th）の改善を進める。</p> <p>⑤附属小学校と中等教育学校が一体となって施設・設備を効果的に活用する。</p>	<p>③小学校入学者決定業務及び適性検査業務については、中等教育学校と附属小学校が相互に補完・理解することができて、今年度は適切に業務を行うことができた。分掌主任同士は、適宜、協議することができているが、全体としての連携にさらに取り組む。</p> <p>④C4th について、教育庁担当者とワーキンググループで改修について協議を進めているが、解決には至らなかった。次年度も、引き続き、対応を協議する。</p> <p>⑤附属小学校の施設の利用希望を、outlook のスケジュール機能を活用して、管理することとした。中等教育学校の探究活動の充実のため、視聴覚ホールなど、ラーニング・コモンズを積極的に活用する。</p>
--	--

【 学校広報の推進 】

今年度の取組目標と方策	取組目標等に関する自己評価 翌年度以降の課題とそれに対する改善策
<p>①ウェブサイトの内容を整理して随時新たな情報を掲載するとともに、Web サイトにつなげるツールも活用する。</p> <p>②学校案内を作成し学校主催の説明会で配布するとともに外部で実施される説明会にも参加して配布する。</p> <p>③学校独自の説明会（全体説明と個別相談）は内容を工夫して実施し、応募倍率の維持に繋げる。</p> <p>④中等と合同で学校運営連絡協議会を実施する。あわせて地域には月間で発行する学校便りを中等教育学校と連携して送付する。</p>	<p>①保護者専用ページを作り、給食の献立と写真を毎回更新するとともに、授業や学校行事の様子を 91 回配信した。</p> <p>②学校案内を校内外で配布することができた。3 月には幼児対象塾向け説明会を実施した。</p> <p>③学校説明会は、動画を活用して本校の教育の特色を分かりやすく説明するものとした。応募倍率は微減。</p> <p>④学校運営連絡協議会は中等教育学校と合同で実施できた。分科会として附属小学校と前期課程、後期課程の 3 グループで協議を行った。</p>

【 適正な入学者決定業務 】

今年度の取組目標と方策	取組目標等に関する自己評価 翌年度以降の課題とそれに対する改善策
<p>①入学者決定業務について研修を行い、意義、仕組み、実施方法、実施内容等について共通理解を形成する。</p> <p>②入学者決定における一般枠募集及び海外帰国・在京外国人児童枠募集における第一次検査及び第三次検査（抽選）を適切に実施する。</p> <p>③入学者決定における一般枠募集及び海外帰国・在京外国人児童枠募集における第二次検査の準備、運営方法、監督者研修、採点点検体制などについては、都教育委員会や経営企画室、中等と連携して、適正に実施する。</p> <p>④入学者決定後速やかに入学予定者説明会を実施する。</p>	<p>①研修動画を作成して研修を行い、参加者の研修の利便性の向上及び業務理解を図ることができた。</p> <p>②海外帰国在京枠で入学手続人員が欠けてしまった。次年度は、実施要綱を見直したい。抽選については、適正に実施することができた。</p> <p>③一般枠及び海外帰国在京外国人枠の二次検査業務を適正に実施した。準備・会場設営などは、更なる見直しを図りたい。</p> <p>④入学予定者説明会は速やかに実施できた。欠席者向けに、入学予定者説明会の動画を撮影して活用した。</p>

【 学年指導・教科指導の充実 】

今年度の取組目標と方策	取組目標等に関する自己評価 翌年度以降の課題とそれに対する改善策
<p>①G I G A 端末等を活用し、個別最適な学びと協働的な学びを推進する。</p> <p>②学年目標を定め児童・保護者と共有し児童が実行に移せるよう指導を充実させる。児童が目標を認識できるよう折に触れ意識させる。</p> <p>③都教育委員会やその他の教育団体の施策を活用し、児童の挑戦を促進するとともに支援する。夏季休業の自由研究を推進する。</p> <p>④児童の様子を観察し、特別な支援が必要な場合は、スクールカウンセラー等と連携し、保護者との面談を行って特別支援教室に繋げる。</p>	<p>①G I G A 端末の活用を積極的に取り入れ、振り返りや共有の場面で、効果的な活用を推進した。</p> <p>②第 1 学年は「Let's Try!」、第 2 学年は「NICE!!」、第 3 学年は「The Sun」、第 4 学年は、「自分で考え、自分で行動しよう。正しいと思うことをしよう。失敗をおそれず、勇気を出して挑戦しよう!」を全ての教育活動において徹底することで児童も理解している。</p> <p>③応募した児童の研究が受賞する等、自己肯定感の向上につながった。</p> <p>④特別な支援が必要な児童には、支援員を配置するとともに、保護者にも、状況を伝えたり、面談の機会を設けたりして、組織的に対応している。</p>

【 教育課程の見直しと国際教育と校内研究の推進 】

今年度の取組目標と方策	取組目標等に関する自己評価 翌年度以降の課題とそれに対する改善策
<p>①小中高 12 年間の教育課程案及び小学校段階の教育課程を見直し、必要な修正を図る。教育計画及び内規をアップデートする。</p> <p>②小中高 12 年間を貫く教育活動全般における指導方針を決定し、小学校低学年について、教科等の年間指導計画を作成し、学習方法やルーブリック等をまとめた児童用の学習ガイドを作成する。</p> <p>③「立国タイム」として、年間指導計画の策定と内容について検討・確定する。</p> <p>④10 学年で実施予定の「リーダーシップ・アクションプログラム（LAP）」の原案について、外部機関への聞き取りを行い実行性について検証して概要を定める。</p> <p>⑤教育課程特例校として、開発した成果検証テストや検定試験を用いて、英語教育の成果検証を行う。</p> <p>⑥第二外国語プログラム（マルチリンガルスタディ I）を東京外国語大学、中央大学及び一般財団法人青少年国際交流推進センター等と連携し、韓国語、中国語、スペイン語、フランス語、ドイツ語、アラビア語、その他の言語について実施する。</p> <p>⑦国際交流について、台湾、ドイツ、ベトナムの姉妹校と交流するとともに、東京体験スクールによる留学生受け入れやインターナショナルスクールとの交流を実現する。</p> <p>⑧プログラミング教育の在り方や方針を検討し、算数科、理科、総合的な学習の時間を中心に、全ての教科等でプログラミング的思考力の育成に適した活動や単元について年間指導計画に位置付ける。低学年のプログラミングの具体的なカリキュラムを編成する。</p>	<p>①P D C A 会議で挙げた事案を踏まえ、来年度の教科担当の持ち方や年間計画の見直しを図った。英語の授業の習熟度別編成や教材について引き続き検討する。</p> <p>②指導方針については、学年進行で検討・計画・実施している状況である。完成年度までのものを再考する。</p> <p>③全校集会を実施して「立国タイム」の充実を図った。高学年の E タイムの年間指導計画の効果検証が必要である。</p> <p>④L A P の実施時期について、中等教育学校での学習や大学進学のことを踏まえ、実施時期を検討した。次年度以降、具体的な内容も含めた検討を進める。</p> <p>⑤英語の成果検証の分析結果や、検定試験の結果を踏まえ、英語教育の成果検証を図った。「聞く」、「話す」の分野の結果は良好である。</p> <p>⑥児童の話し合い活動など、特別活動の時間を確保するため、マルチリンガルスタディの実施回数を見直す。講師からは好評である児童からのお礼の手紙は、引き続き実施したい。</p> <p>⑦台湾を訪問し、国際交流について具体的な内容を検討することができた。次年度も、海外姉妹校の提携に向けて、現地校と協議を進める。東京都の施策を活用して、計画的な国際交流の機会を創出できるように検討する。</p> <p>⑧プログラミング教育、情報教育については、教科指導の中で取り組むことが難しい。次年度、具体的な取組について検討する。</p>

【 特別活動の充実と生活指導の徹底 】

今年度の取組目標と方策	取組目標等に関する自己評価 翌年度以降の課題とそれに対する改善策
<p>①キャリア・パスポートとして「立国手帳」を活用する。</p> <p>②三祭（体育祭、文化祭、合唱祭）について中等教育学校との連携内容・方法等を協議する。</p> <p>③給食の献立を教育活動と連携して計画し食育を行う。児童の食に関する調査を行い食育に活用するとともに食育便りを発行し家庭とも連携して食生活の改善を図る。</p> <p>④児童の健康教育を推進する。長期休業中の生活を規則正しく送れるように指導を工夫する。</p>	<p>①今年度は、活用する機会が少なかった。次年度は、「立国手帳」の計画的な活用を促進する。</p> <p>②体育祭と文化祭については、相互鑑賞の機会を設けた。合唱祭での楽器演奏について中等教育学校の吹奏楽部等からのアドバイスがあるとよいので、次年度以降、検討する。</p> <p>③毎回、給食において食育を実施することができた。食に関する調査を 2 回実施して、給食指導に活用するとともに、保護者向けに食について発信することができた。次年度も、食育指導を継続する。</p> <p>④夏季・冬季休業中から始業式を挟む各学期始めまでの 6 日間、「元気アップウィーク」を設定して健康教育の実施することができた。保護者会や保健だよりで保護者に周知し協力を依頼しながら次年度も継続する。</p>

(2) 学校経営の目標と方策

今年度の取組目標と方策	取組目標等に関する自己評価 翌年度以降の課題とそれに対する改善策
<p>①全教職員が、中等教育学校及び附属小学校の一体的な運営に対する意識を高め共有することで、校内組織体制の強化と改革を推進する。</p>	<p>①双方の分掌担当者との連携についての調整が昨年度よりも多く実施できて、一体的な運営の意識が高まっている。次年度、全教職員が関わるような機会を創出したい。</p>

<p>②企画調整会議、教科主任会議、P D C A会議の機能の充実と委員会の活用による共通理解を図る。</p> <p>③若手教員の教科指導力などの向上のため、組織的な支援体制を構築する。</p> <p>④読書活動の充実を図り、児童の思考力・判断力・表現力の基礎を育成する。</p> <p>⑤S O Sの出し方に関する教育の推進、自殺対策に資する教育を行う。</p> <p>⑥学校いじめ対策委員会を中心に、いじめの未然防止、早期発見、早期対応に組織的に取り組み、いじめをしない、させない、見過ごさない態度を育成する。</p> <p>⑦校内研修や啓発活動を通して、教育公務員としての高い使命感と倫理観をもち、服務規律を順守することを徹底し、体罰や暴言のない指導、3ない運動プラス、服務事故根絶を達成する。</p> <p>⑧東京都子ども基本条例や人権教育に関する法令等及び人権課題についての正しい理解と認識を深め、立国ルールである児童の呼称と、個人情報を取扱うに当たり複数人により複数回点検を徹底する。</p> <p>⑨I C T機器を活用した企画調整会議等のペーパーレス化、デジタル掲示板を活用した情報共有・連絡体制の構築、また、教科指導以外の業務の精選と効率化、さらに、週に一回以上の定時退庁の実施など、教職員のライフ・ワーク・バランスを推進する。</p> <p>⑩施設・設備等を計画的に整備し、良好な教育環境のための予算編成を組むことで、充実した教育活動を実現し、働きやすい職場環境を創出する。</p> <p>⑪経営企画室の学校経営参画を促進し、業務管理表等を活用して、業務の進捗状況を適切に管理するとともに、生徒の安全確保のための施設設備の保守点検及び改善を随時実施する。</p>	<p>②企画調整会議を通じて、中等教育学校と附属小学校の動向や教育活動について情報共有を図り一体的な運営を実現できている。</p> <p>③新規採用教員に対して、指導教諭、メンター以外にも指導助言があり、教員全体で育成に関わることができた。引き続き、指導する。</p> <p>④読書週間や中等生徒による読み聞かせ等、充実した読書活動を実施することができた。次年度は、委員会活動を中心に、読書活動の充実を行う。</p> <p>⑤道徳や、人権尊重教育推進校としての取組みを通して、生命尊重の考えを指導している。</p> <p>⑥いじめアンケートや児童からの声、保護者からの連絡帳などから、いじめにつながる前に対応することを心掛け、組織的に取り組んでいる。</p> <p>⑦服務事故防止研修のほか、サービスニュースレターなどを活用し、未然に服務事故防止に努めた。</p> <p>⑧生活指導の打合せなどで、児童対応について情報共有を図った。個人情報の点検については、複数人での検討を徹底する。</p> <p>⑨教職員のライフ・ワーク・バランスは、教員間で差がある。管理職から、適宜、声掛けをしたい。</p> <p>⑩経営企画室に、適宜、声掛けを行い、学校経営計画の具現化を予算面で達成することができた。</p> <p>⑪生徒の安全確保のための修繕など、適宜、対応することができた。</p>
---	--

(3) 数値目標

数値目標	今年度結果
<p>○学校評価：保護者の満足度：85%</p> <p>○自宅学習時間 1・2年生：15分 3年生：25分 4年生：40分</p> <p>○教員相互の授業観察：各学期に1回以上</p> <p>○中等教育学校との交流：5件</p> <p>○学校だより・学年通信・保健だより発行：年10回</p> <p>○ホームページなどWebサイト更新：計200回</p> <p>○説明会・授業公開参加者数：2000人</p> <p>○応募倍率 一般枠：20倍、帰国・在京枠：1.5倍</p> <p>○食に関する調査：2回</p> <p>○夏季休業中の自由研究の促進、科学、芸術、文化等に関するコンテストへの挑戦：5件</p> <p>○海外姉妹校との交流：3回</p> <p>○P D C A会議：3回</p> <p>○校内授業研究：1・2学期各1回、授業公開：3学期</p> <p>○夏季休暇取得率：100%</p> <p>○年次有給休暇取得：年間15日</p> <p>○¥超過勤務時間一月当たり45時間以下の教員割合：8割</p> <p>○服務事故の発生件数：0件</p>	<p>○保護者の満足度：94%</p> <p>○自宅学習時間 1・2年生：15分 3年生：25分 4年生：40分</p> <p>○教員相互の授業観察：3回</p> <p>○中等教育学校との交流：6件</p> <p>○学校だより・学年通信・保健だより：年38回</p> <p>○ホームページなど更新：193回</p> <p>○説明会・授業公開参加者数：1832人</p> <p>○応募倍率 一般枠：21.98倍、帰国・在京枠：3.0倍</p> <p>○食に関する調査：2回</p> <p>○コンテストへの挑戦：29件</p> <p>○海外姉妹校との交流：2回</p> <p>○P D C A会議：3回</p> <p>○校内授業研究：学期各1回</p> <p>○夏季休暇取得率：100%</p> <p>○年次有給休暇取得：年間15日 40%</p> <p>○一月当たり45時間以下の教員割合：7.5割</p> <p>○服務事故の発生件数：0件</p>